

大腸癌検診と大腸ポリープ

医療法人 小金井中央病院
内科医 宮田 なつ実

大腸癌は、かつては日本人には少ないタイプの癌とされていましたが、食生活の欧米化に伴い急激に患者数は増加し、現在ではがん死亡率のうち女性で第1位、男性では第3位となっています。



大腸癌の多くは腺腫と呼ばれるポリープを発生母地として出現します。大腸腺腫は5mm程度になるまでは成長はきわめ



てゆっくりで、小さいまま成長を停止するものも多くあります。しかしながら一部は大きくなるにつれ成長が加速し、直径1cmをこえるポリープでは1割程度、2cmを越えるものでは半分以上が大腸癌の細胞を持つようになります。



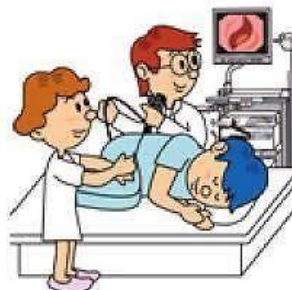
逆に言えば、小さなポリープのうち切除できれば、多くの大腸癌の予防や治療ができるということです。

大腸癌検診として現在広く行われているのは、目に見えない大腸の出血を発見する便潜血検査です。これは簡単に、安い費用で行うことができ、大腸癌の総死亡率を3割程度減らす効果があります。



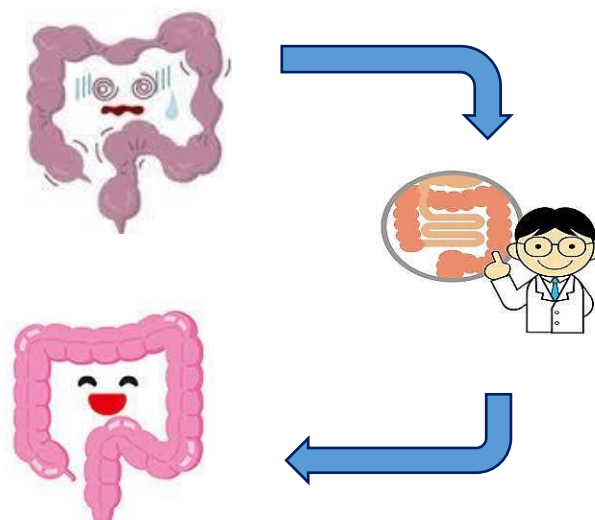
癌は正常な粘膜と比べて脆い組織を作るため、大きくなると崩れて出血しやすくなります。血便や腸閉塞などの症状が出現する前に、進行大腸癌の9割程度、早期大腸癌の半分程度が便潜血検査で陽性となります。

検査の時点で出血していない大腸癌や、早期癌、大腸癌の予備軍である大腸ポリープをより確実に発見するためには大腸内視鏡検査が有用です。



便潜血検査と比べて大腸内視鏡検査は費用面での負担も大きく、検査前に大腸を下剤できれいにするのに半日程度を必要とし、大腸が内視鏡によって引き延ばされる時に痛みが出ることもあります。

とはいえ大腸内視鏡の検診を受けることで大腸癌死亡リスクはおよそ7割低下し、ポリープをなくす事でリスクを低下させる効果は10年程度続くとされています。



近い血縁に大腸癌患者がいる方、大腸ポリープが見つかったことのある方などは積極的に大腸内視鏡検査を受けた方が良いでしょう。

健康診断（大腸がん検診）のすすめ

医療法人 小金井中央病院
臨床検査科副技師長 加藤 雅嗣

皆さんは、特定健診や人間ドックなどで行われている『便潜血反応検査』をお受けになつていますか？

・便潜血検査 (FOBT= Faecal Occult Blood Test) とは？

便の中に存在する血液，消化管からの出血の有無を検出する検査で「免疫学的方法」と「化学的方法」の2つの方法があります。

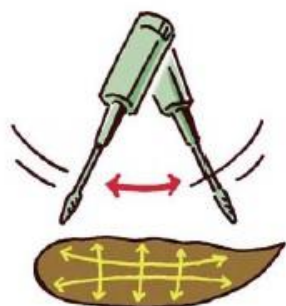
当院で行われている便潜血検査は免疫学的方法で、ヒトヘモグロビンに対する抗体を用いて潜血の有無を検出する方法です。豚，牛あるいは魚類の血液には反応しません。ヒトヘモグロビン（潜血）を特異的に検出できます。

もう一方の化学的方法とは、肉や魚料理などに含まれる血液や鉄剤，ミオグロビン，緑黄色野菜でも陽性となり，偽陽性反応が問題となるため現在ではあまり行われていません。

・便の採取

便を採取するのは気の進まない作業ですが、便検査容器の採取説明書に従って正しく採取して下さい。絶対避けなければならないのは、洋式便器で便器内の水に便が触れてしまうことです。便の採取方法が不適切だと折角検査を受けても正しい結果が得られず出血があっても陰性になることがあるので注意が必要です。

2日間採取する2日法を行うと早期がんの発見率は、1日採取法の3倍になるといわれています。症状がなくても年1度は必ず受けるようにしましょう。



まんべんなく採ってください。

・便潜血陽性でわかること

大腸の内壁にがんができると、しばしば出血が起きます。その量が多いとタール便（黒色便）や鮮血便になり、便器に真っ赤な血が付いたりします。早期の大腸がんですと出血が微量なので見た目では分かりません。便潜血検査は、血液のヘモグロビンが便の中に存在するかを調べて陽性反応が出れば、医療機関で精密検査を受けることになります。

胃など上部消化管に出血がある場合は、ヘモグロビンが消化液の影響を受けるため検出できにくいのですが、大腸の場合は微量の出血でも反応が出るため、大腸がんの早期発見に役立ちます。



・便潜血反応陽性＝大腸がん？

便潜血反応が陽性だからと言って大腸がんだと心配することはありません。痔や大腸ポリープ、憩室炎などでも出血を起こします。そのために2次精査が必要となります。ですから、便潜血陽性反応の結果がでたら、必ず医療機関を受診してください。

統計的には便潜血検査実施者の4～6%が陽性を示し、その約半数から大腸ポリープが発見され、8%ぐらいにがんがあるとされています。ですから陽性になっても悲観的にならずに大腸内視鏡検査などの精密検査を速やかに受けることが重要です。

逆に陰性であっても安心はできません。進行がんの中でも出血しないものもありますし、検査時にたまたま出血がなかったという場合も考えられます。大腸がんは45歳以上になると発症率が高まります。前年に便潜血反応が陰性であっても毎年検査を受けることが大切です。

当院は、栃木県大腸がん検診精密検査登録医療機関です。大腸内視鏡検査を予約で月曜日～土曜日まで毎日施行しております。

検査についてわからないことがあれば、医師、看護師、検査技師にお気軽にご相談ください。